

上部消化管内視鏡（胃カメラ）の説明書・同意書 20 年 月 日

【検査目的】

食道・胃・十二指腸にできる病気（炎症・潰瘍・ポリープ・がん・食道静脈瘤等）を見つけ、適切な治療方法を考えるために行います。

鼻からのカメラを希望される方でも、カメラが鼻から入りにくい場合は口から行います。

【一時中止薬の確認】

血液をサラサラにする薬は一時中止の必要な場合があります。飲んでいる方はお知らせください。

中止する薬品名 _____ 期間 _____

【方法】

1. 麻酔

麻酔薬（キシロカイン）をのどまたは鼻にスプレーします。まれにアレルギーをおこす方がいます。以前に麻酔薬で気分が悪くなったことがある方はお知らせください。

2. 注射

消化管の動きを抑えるために注射します。心疾患・前立腺肥大症・緑内障・甲状腺機能亢進症の病気がある方は、お知らせください。

また、必要に応じて静脈麻酔（眠り薬）を使って検査する事があります。

3. 観察

必要に応じて色水をまいて粘膜の様子を見ることがあります。

4. 生検

検査中に病変が見つかった場合、一部を採って顕微鏡で詳しく組織検査する事があります。



【合併症】

1. しばしば認められるもの

のどや腹部の不快感、痛み、吐き気、咳、げっぷ、頻脈、のどの渇き、下痢、及び鎮静剤によるめまい、眠気など。

2. まれに認められるもの

① 出血

1千人に6人（0.64%）の確率でカメラのこすれ、生検のきず、出血しやすい体質や薬の作用により消化管出血が起き、止血治療・輸血・入院・手術が必要になる場合があります。

② 穿孔

1万人に4人（0.04%）の確率で食道・胃・腸に穴があき、輸血・入院・手術が必要になる場合があります。

③ アレルギー反応と薬物反応

ヨードや鎮静剤などの薬物によるショック・呼吸困難・吐き気・蕁麻疹・めまい・口渇・動悸などがおこる場合があります、輸液・薬物療法・入院が必要になる場合があります。

④ 口腔内損傷、歯牙損傷が発生する場合があります。

3. 鼻から行う場合は上記の合併症以外に鼻出血をおこすことがあります。

以上の合併症や予期しがたい合併症が起きた場合はできる限りの対応をいたします。

_____ 医院・クリニック・診療所 _____ 説明者氏名 _____

承 諾 書

私は、上部消化管内視鏡検査について上記の説明を受け、検査を同意いたします。

20____年____月____日 患者氏名 _____

家族（続柄） _____（ ）